

学校ホームページでの情報発信のあり方について

明星大学教育学部教育学科 特任教授 小 泉 和 義

はじめに

I T技術の進歩は驚くばかりである。スマートフォン、タブレットの普及は言うに及ばず、A I、V R、さらには自動運転等々、挙げれば切りがないほどである。さらには、グローバル化の進展や学校教育におけるI C T技術を活用した授業展開等の普及も、目を見張るものがある。

そんな中での学校のあるべき姿は、今後どう変わっていくのであろうか。特に情報化といった面にスポットを当てた時、注目される1つに学校ホームページがある。各学校ではホームページを立ち上げ、子供たちの生き生きとした学校生活の様子を発信したり、行事予定の掲載や学校経営等の情報を発信したりと、日々取り組んでいる。しかし、急速に環境が変わりつつある情報化社会の中での学校ホームページの今後や、目前に迫った新学習指導要領が完全実施されることを考えると、今まで以上に学校ホームページの充実が必須となるのではないだろうか。

新学習指導要領においては「社会に開かれた教育課程」が1つのポイントとなっている。これらのことから「現代社会」「情報化社会」「新学習指導要領」「社会に開かれた教育課程」「学校経営」と言った視点で学校ホームページの見直しを行う必要が生じている。中でも、学校と社会が理念を共有する教育課程の編成など、社会とのつながりを持って取り組んでいく必要があることから、学校ホームページはそのツールとして、その存在が大きな鍵となるのではないだろうか。また、学校と社会が一体となって、未来を担う子供たちの育成を行うために、教育課程は学校教育の柱であり、これを社会に今まで以上に開いていくためにも、学校ホームページは有効な手段であると言える。

以上のことから、相模原市立小学校校長会の協力を得、市内小学校の学校ホームページの実態把握を行い、現状を明らかにすると共に、外部・来校者に配慮したコンテンツや、そして教職員の業務量等についても配慮し、新学習指導要領下の学校運営に寄与できるような学校ホームページの在り方について、まとめた。

1. 小学校ホームページの実態(相模原市)

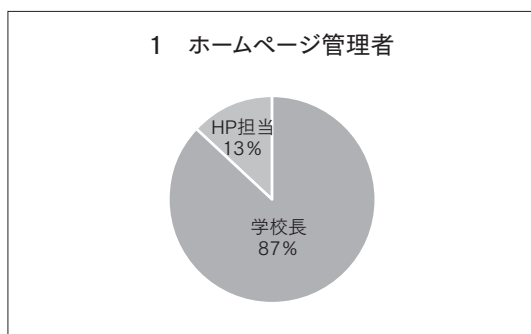
学校ホームページの実態についてアンケート調査し、その傾向や各学校が抱えている課題等を洗い出してみた。

(1) アンケート実施

市内74校の小学校の中から15校を無作為抽出し、アンケートを実施。

1. ホームページ管理について

(1) 学校ホームページの管理者はどなたですか？

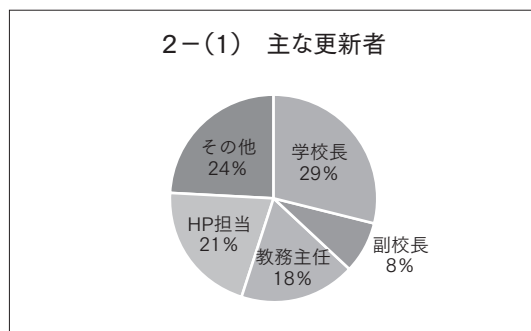


校長が9割、それ以外では情報(ホームページ)担当が管理者を務める。

情報の発信の責任者としては妥当な数字。反面、管理職の仕事を増やしてはいないかといった、懸念も生ずる。

2. ホームページ更新について

(1) 主な更新者はどなたですか？【複数回答可】

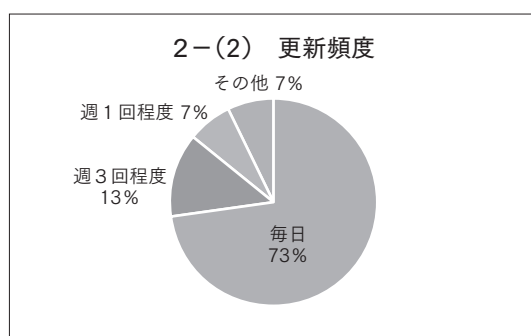


主な更新者の3割が校長であった。

その他には学年担当職員、ブログ機能は各担任、ブログは全職員、副教務、栄養教諭、児童指導専任教諭といった回答もあった。

以前より、役割分担が進んでいる。背景には、ブログ等の機能が教職員に認知され、更新のハードルが低くなってきたことが挙げられるのではないかな。

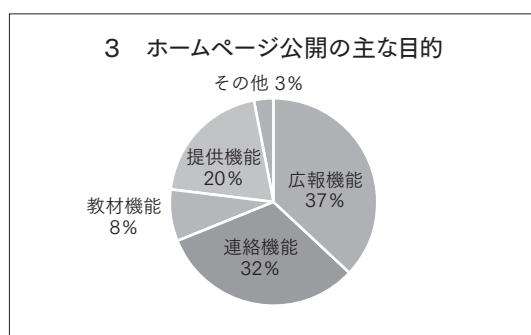
(2) ホームページの更新頻度はどの程度ですか？



7割以上の学校が、何らかの形で毎日ホームページを更新していることがわかる。

その他としては、「ブログについては、ほぼ毎日更新」あるいは「なるべく一日に1つ更新」といった回答もあった。大多数の学校は、ブログ更新に力を注いでいると考えてもよいのではないかな。

3. ホームページ公開の主な目的は何ですか？【複数回答可】

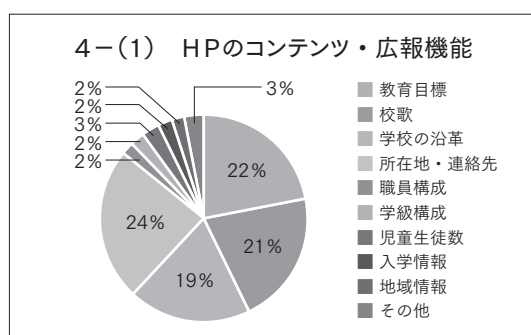


広報機能と連絡機能で全体の6割を超える数値である。学校生活の様子等を紹介することに力を入れようとしていることがうかがえる。教材機能にチェックをした学校は3校、交流機能を目的としている学校はなかった。

その他として「研究授業会の案内等」という回答もあった。

4. ホームページのコンテンツはどんな内容を掲載していますか？【複数回答可】

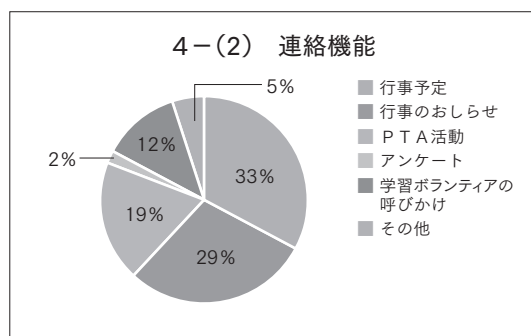
(1) 広報機能



広報機能の中味としては、「教育目標」と「校歌」、「学校の沿革」、「所在地等」がそれぞれ2割、全体として8割強の学校がコンテンツとしてあげている。

その他としては「校内案内図」、「いじめ防止基本方針」、「学校生活の決まり」、「日課表」、「給食の献立」などがあつた。「いじめ防止基本方針」は必須のため、あえて回答欄に記入しなかった学校もあると考える。

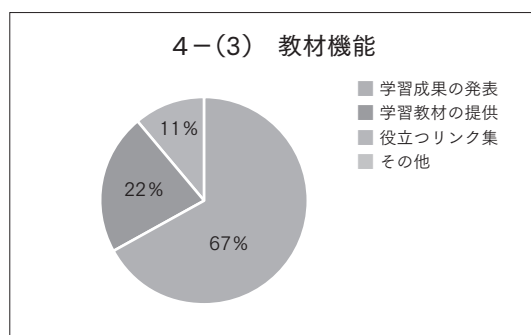
(2) 連絡機能



連絡機能の中の内容としては「行事予定」「行事のお知らせ」「P T A活動」が大勢を占めていた。

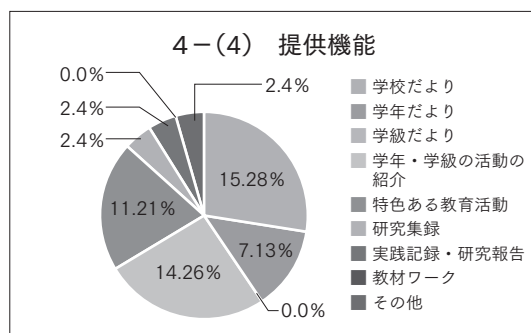
その他としては「登下校時間等の変更」「給食の献立」「緊急連絡・不審者情報」等の回答が返ってきた。

(3) 教材機能



教材機能をあげた学校3校では、学習成果の発表は2／3を占め、その他としては学習教材の提供等があった。

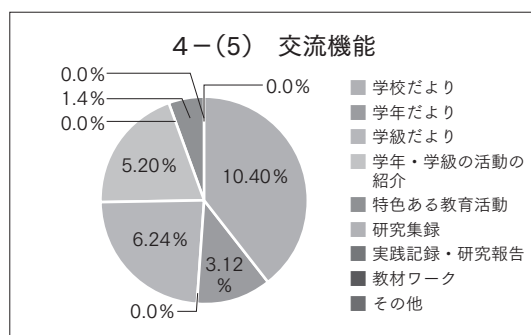
(4) 提供機能



提供機能は15校中8校から、回答があった。その多くの内容としては、「学校だより」等のお便り系が多数を占めた。また、「特色ある教育活動」を内容として挙げている学校もあった。

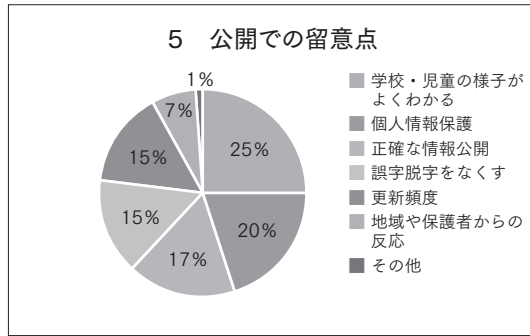
その他としては、「給食だより」「外国語活動・英語に関する教材一覧」といったその学校ならではの特色あるコンテンツを提供している学校もあった。

(5) 交流機能



設問3の「ホームページ公開の主な目的は」の問いでは、広報機能が15ポイントあり、交流機能は0ポイントであったが、設問4- (5)の「どんな内容を掲載しているか」の問いに対して、グラフでもわかるように、交流機能として「学校だより等」を選択した学校があった。要因としては、交流機能の質問の回答例に「学校だより」や「学年だより」等があったためと推測できる。

5. ホームページ公開(更新)での留意点や、公開で大切にしていることは何ですか？【複数回答可】

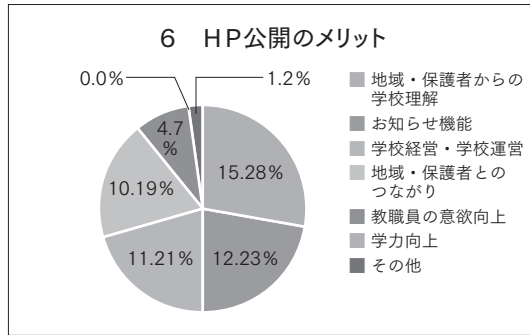


回答の1／4に「学校・児童の様子がよくわかる」が選択されていた。また、個人情報保護にも各校が気を配っていることがわかる。

その他においては、「質の高い情報の提供（ただ単に公開すればよいというものではないこと）」と回答した学校があった。また、「修学旅行や遠足等は、子供が帰宅して、まず子供が家庭で伝えることを大事にする。」「子供が伝えるよりも先に保護者が知ることの罪。」そして「修学旅行・

遠足中はブログの発信をあえてせず、子供の話を聞くことを大事にもらい、数日後に発信する。」という回答も寄せられた。視点を変えた公開方法であり、興味を引く回答であった。

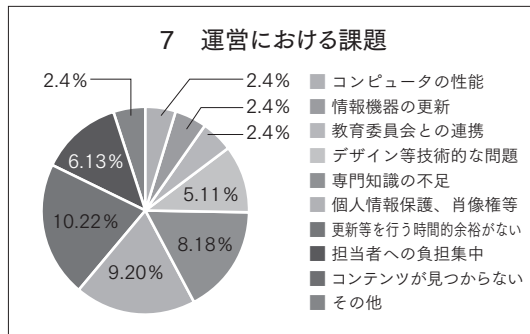
6. ホームページ公開・更新のメリット(有効性)はどんな面にあるとお考えですか？【複数回答可】



ホームページ公開の有効性としては、「学校理解」と「お知らせ機能」の2項目で半数を占めた。各学校が取り組んでいる教育活動を、効率的に地域保護者にお知らせする有効な手立てを、学校ホームページに託していることがよくわかる。

その他の回答として「ブログ更新によって、自分たちの教育活動を見直す」「『伝える』『理解を得る』『発信する』ことの教師力向上」と回答した学校もあった。

7. ホームページを運営する際の、ハード面・ソフト面での課題等は何ですか？【複数回答可】



運営上の課題は多岐にわたっての回答が戻ってきた。「更新等を行う時間的余裕がない」10.2%「個人情報保護、肖像権等」9.2%だった。教職員の多忙化に拍車をかけかねないことを懸念しているかのようである。ホームページ更新は間違いなく仕事が1つ増えることにつながるため、各校で課題としてあげていると推測できる。

その他の回答では「災害時など市内全学校でのアクセス集中で機能しないことがある」や「ブログを学年別にして

いるので、更新の頻度の差が歴然(あえてそうしているのだが)」といったこともあった。

8. ホームページ活性化のために、行っている工夫等がありますか？(自由記述)

各調査抽出校から様々な工夫等の回答があった。(原文を領域別に分類整理)

○環境整備面

- ・誰でも発信できるように環境を整えた。
- ・スマホでも見やすいように、スマホ版を作成した。
- ・各クラスにカメラ・SDカードを配る。
- ・ブログ機能を活用して、簡単に情報アップができるようにしていること。

○更新頻度

- ・ブログを毎日更新(給食)。夕食時の話題にしてくれている家庭が多い。
- ・更新を多くし、日頃の子供の様子をリアルタイムで伝えていくこと。

- 保護者・地域の方に学校教育活動が理解され、興味関心をもってもらえるよう、毎日更新を心がけている。
- 各学年のブログ更新の頻度を重視し、文字数を少なく写真を多く入れるようにして、負担軽減を図っている。
- 更新作業が比較的簡単なので、更新頻度をあげている。また、携帯電話からも見られるようにし、保護者が閲覧しやすい形での提供もしている。
- 学校内外で行われている教育活動は、なるべく保護者や地域の方々にもご理解いただき、開かれた学校づくりを進めていく上で、タイムリーなホームページの更新を推奨している。

○校内体制

- 学校行事では記録担当が更新業務にあたり、学年（学級を含め）活動であれば、学年内の記録担当が更新に当たるようにしている。
- 校外での活動においては、級外や付き添いがその業務にあたるのが、暗黙の了解となっている。
- ブログの掲載文章の内容を学校長が校正することで、教員の学年・学級経営や教科のねらい、その後の活動への反映等が整理できる機会になるようする。
- ホームページの重要性・有効性を校長や担当が職員にしっかり伝える。
- ブログの内容ごとに担当を決める。

○コンテンツ

- 生き生きとした子供の表情が分かる写真を掲載すること。
- 見てよかったと思っていただけるよう、重要なお知らせを掲載するよう務めている。
- 校内研究なども、どのような内容を研究しているのか、一般の方が理解しやすいような内容を掲示し、取り組みを示すようにしている。
- ブログ機能の積極的活用。
- ブログを通して、学校経営のねらいや各授業や行事のねらいが保護者に伝えられるよう内容をくみだしている。

○他メディア等との連動

- 防災関連の内容は、メール配信と同時にHPにも掲載し、メールが届かなくてもHPを見ることで内容を確認することができる。
- グループメールと連動したお知らせで情報が確実に伝わるようにしていること。
- 緊急連絡におけるお知らせ機能の活用（メールでの連絡と併用）。
- 教員の負担感を減らすため、ブログの更新内容が掲載写真や文章がそのまま学年だよりの内容に反映できるようにしている。

○運営方法

- 年度当初の学校だよりで「ホームページ充実への理解」のことを伝え、「肖像掲載が難しい方は一報を」と伝えているが、いまだ一度も不可の連絡はないので、写真掲載に気を使わないで済む。（生き生きした表情の画像を掲載）
- 学校だよりの学級だよりとブログの連携。（例：たよりで伝えた具体をブログで掲載）

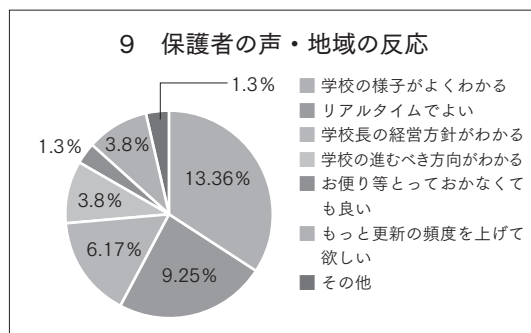
○教職員のモチベーション

- 公開承認は校長決済なので、更新されたブログのなかで優れたものは、機を逃さず、作成者に称賛の声をかける。

様々な工夫の中でも、多かったのが、「更新頻度」である。ブログ機能をフルに活用し、リアルタイムで臨場感溢れる教育活動の様子を発信することで、保護者等のアクセスも増え、教育活動の活性化につながっていると各校で判断しているようである。

また、職務（仕事）の軽減と言った面での工夫を行っている学校が多かった。担当制や、簡単に更新できるシステムに転換すると言ったことがあった。他には、学校ホームページのスマートフォン版化を進めている学校もあり、学校ホームページが開設された当時と比べシステムも改善され、まさに時代に合った学校ホームページに変身を遂げている感がある。

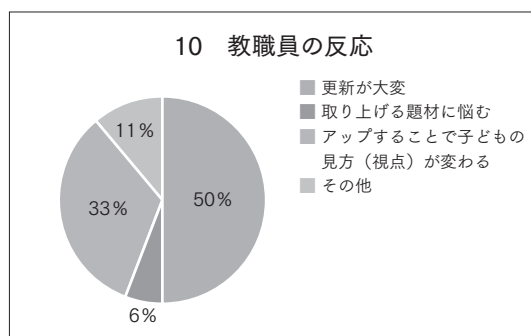
9. 保護者からの声、地域からの反応はどのようなものがありますか？【複数回答可】



当然のことながら、「学校の様子がよくわかる」「リアルタイムで良い」が半数以上を占めた。興味深い回答では「お便り等を取っておかなくてもよい」といった声も寄せられた。まさにペーパーレス時代の先端をいくような、反応である。

その他としては、「お便りの更新（最新号）を確実に行って欲しい」といった保護者からの要望があることも、寄せられた。

10. 教職員からはどんな反応がありますか？【複数回答可】

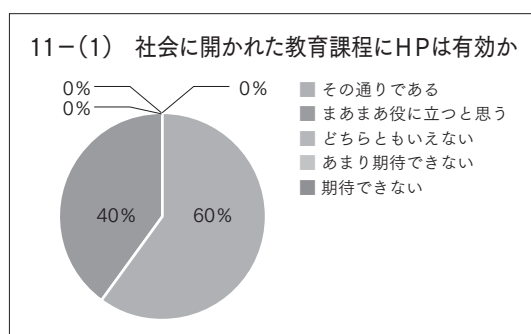


教職員からの反応では、容易に予想できる答え「更新が大変」が半数を占めた。ホームページ管理者（管理職）としては、この負担感を解消するための、総合的で実効性のある対策を早急に進めることが必要と考える。反面、3割の回答には「アップすることで子供の見方・視点が変わる」と、ホームページ更新において、思わぬ副産物としてのメリットも実感していることも分かった。

その他としては、「他の学年等の実践の様子を見て、刺激になる。」他には「学級だよりで掲載した白黒写真をブログでも掲載することでカラー写真を見てもらえる」「学年にブログ担当を置いていることと簡単にアップできるようにしてもらっているので、これまでの職員は、大変さをあまり感じていないようだ。ただ、ブログをやっていない学校から着任してきた職員は、ブログに不慣れなため、更新の大変さや取り上げる題材に悩むことがある。」「授業や行事の振り返りにも役立っている。」等多くの回答が寄せられた。

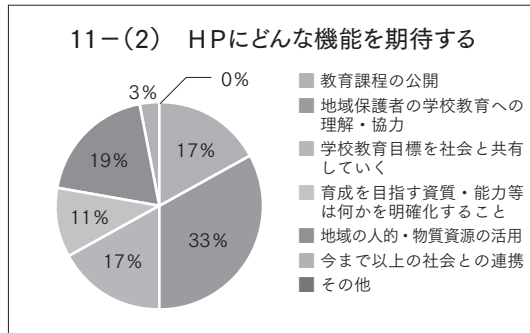
11. 新学習指導要領のポイントの一つである「社会に開かれた教育課程」と、ホームページ公開・更新との関係について

(1)「社会に開かれた教育課程」を進めるにあたって、学校ホームページは有効な手段の一つであるとお考えですか？



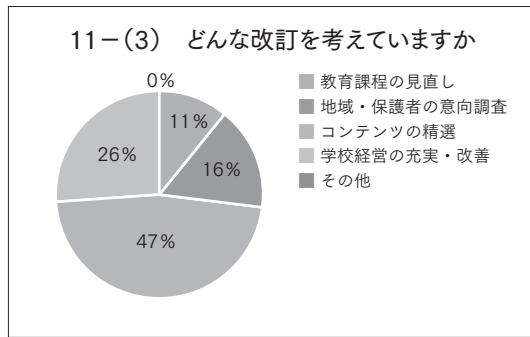
新学習指導要領のポイントの1つでもある「社会に開かれた教育課程」を実現するために、学校ホームページが「有効な手段」あるいは「まあ役に立つ」と回答した学校は全校であった。何らかの形で、「社会に開かれた教育課程」の実現のツールの1つととらえているのではないかと推測できる。

(2)「社会に開かれた教育課程」に対し、学校ホームページにどんな機能を期待していますか？【複数回答可】



次に「社会に開かれた教育課程」に対して、どんな機能を学校ホームページに期待するかの問いには、当然のことながら「教育課程の公開」や「地域保護者の学校教育への理解・協力」が半数を占めた。他方、「地域の人的・物的資源の活用」や「学校教育目標を社会と共有していく」といったことを選択した学校もあった。

(3)「社会に開かれた教育課程」を推進する上で、学校ホームページを改訂するとしたら、どのようなことを行いたいと考えていますか。



改訂という面では「コンテンツの精選」が約5割となった。新学習指導要領の完全実施まで、若干の時間的余裕があるためか、「社会に開かれた教育課程」を推進する具体的な手立ては、検討中ではないかとの推測もできる。

(2) 結果の考察

アンケート結果を振り返り、実態から見えてくるものや感想等であるが、第一に思い浮かぶことは、「各校の学校ホームページに対する努力は賞賛に値する。」ということである。各学校が種々の工夫と日々の努力の積み重ねによって、見応えのある学校ホームページとなっていることを、今回のアンケート調査を行ったことで改めて実感した。

保護者の学校ホームページに対する期待は、当然、大きなものがある。特に我が子が学校生活を有意義に、そして生き生きと過ごす姿が、ホームページ画面を通して手に取るように分かるため、学校ホームページに期待する気持ちは間違いなく大きい。そして、学校ホームページを公開することで得られる保護者からの信頼も、より深まる。さらには、日々の教育活動等を学校ホームページという形で公開することは、教育活動への理解度が確実にアップすることも忘れてはならない。

次に、教師サイドから見た学校ホームページについてであるが、更新作業をすることで思いもよらない効果が生まれていることが分かった。それは「教師の子供への見方が変わる」ということである。ただ単に子供の写真を撮りアップする作業から、作業回数を重ねていくことにより、「教育活動のシーンや子供たちの様子を多面的に、そしてきめ細かな視点で見られるようになってくる」ことである。

よい面が顕著な学校ホームページではあるが、やはり「教師の多忙化」と言った面では課題が残る。例えば、更新頻度を上げることでリアルタイムな情報発信等が実現するが、その裏には教職員の業務量の増加は否めない。この両者の兼ね合いを考慮した、運営を行うべきであると改めて感じた。

また、今回の調査のもう一つの柱でもある「社会に開かれた教育課程」に向けた学校ホームページの活用についてであるが、「社会に開かれた教育課程」の見直し等、各学校現場では新たな教育課程を模索する中、今まさに変革期であり、学校ホームページの活用についても途上である。学校ホームページからの情報発信等のイメージ化や、校内論議はまだ始まったばかりであると推測される。将来的な広がり・深化

を期待したい。

以上いくつかの視点で述べたが、学校ホームページは、日々の学校経営・教育活動の活性化には欠かせないことは誰もが認めるものである。学校の自己満足で終わらないためにも、意図的・計画的な運営を行うことと併せて、最終的には校長の学校経営の一環であることを常に念頭に置き、取り組むべきであると考えている。

2. これからの学校ホームページの在り方

今日の情報化社会において、学校情報の開示（アカウンタビリティ）は、今や欠かせない内容項目である。学校情報開示のツールとしての学校ホームページの存在は、インターネットが普及し学校のホームページがちらほら出始めた当初は、さほど重要視されていなかった。しかし、情報化の進展が著しい今日では、学校運営にかかわる情報発信の窓口として、役割の重要性が増している。

学校情報の開示（アカウンタビリティ）は、学校が児童や保護者・地域の人々との間で、いわゆる双方向でのコミュニケーションをとりつつ、教育の改善に取り組む責任と言ってもよい。そこで教育現場としては、今まで以上に教育の情報化に総合的に取り組み、情報化によって教育の質の向上を実現して行くべきであると考えている。

しかし、コンテンツの充実のみを目指すとは弊害が起こる。特に、職員の多忙化につながるような運営は長続きしない。まずはそこを念頭に置き、運営に当たることが肝要である。また、先ほども述べたが、学校からの情報の発信あるいは伝達する一方的な面だけでは、よりよい情報発信とは言えない。

一方、学校ホームページの運営としては、誰がどんな情報を求めてアクセスしてくるのか、また、学校運営にとってプラスになる情報は何かなどをしっかり取捨選択する必要がある。当然のことながら、どんな人々が学校ホームページを覗きにcomingのか、どんな学校経営の情報を入手するのか、店舗やショッピングに置き換えてみれば、顧客情報の分析は学校経営（ホームページ運営）には必須ではないだろうか。

これらのことから、今ある学校ホームページを更に充実・進化させるために、いくつかのポイントで「これからの学校ホームページのあり方」について考えてみた。

（１）管理運営面について

まずは管理面であるが、学校ホームページ立ち上げにはマンパワーが必須であることは、誰もが承知のことである。理想としては、各学校に校内ＩＣＴ担当者といった専従の人材を配置できれば、それに越したことはない。しかし、予算面等のハードルはあまりにも高すぎる。また、コンテンツ内容に係る情報収集や、コンテンツ内容の取捨選択等は教員職でなければならない。

現実的には従前の特定の担当者から、全員が更新できるスタイルへ移行することが望ましい。ここでの留意点は、そのことによる負担増としない工夫が必要である。具体的な改善点としては「誰でも操作容易なシステム」に改善し、手軽にコンテンツをアップでき、なおかつ情報公開への最終決済等にも一工夫をするとよいのではないだろうか。また、コンテンツ別の更新めやす等も設定しておくともよいと考える。それは更新のめあすを事前に決めておくことで、より計画的な運営が可能となるからだ。

そして、より充実したコンテンツとするために、もう一度稼働中の自校ホームページを見直し、かつ学校ホームページ公開の目的の明確化と機能（広報機能、連絡機能など）の整理を行い、教職員の共通理解を図るとともに、個人情報保護の観点も留意しつつ、保護者への理解を求める発信も忘れずに行うとよいのではないだろうか。

（２）学校ホームページ利用（閲覧）者や必要情報について

予想される学校ホームページ利用（閲覧）者であるが、以下が考えられる。

・児童生徒 ・保護者とその家族、地域住民 ・教育関係者（他校教員、中学校教員、各種教育機関、教育委員会他） ・卒業生 ・転入学予定者とその保護者 ・その他

次に、外部からの学校への訪問者や学校関係者が求めている、学校ホームページのコンテンツ・情報について考えてみた。

ア. 外部訪問者が欲しい学校情報

学校を実際に訪問する場面等を考えると、アクセスマップや最寄り駅からの行き案内は必須である。意外に戸惑ってしまうのが来訪者用玄関である。学校には着いたが校舎内のどこから入ればよいか、校地内で右往左往してしまうことがある。そのための「校舎配置図」等もあるとありがたい。また、授業時間の合間等を見て、来訪する場合も多々あるため、「日課表」などの掲載も欲しいところである。

イ. 学校関係者が欲しい情報

学校経営方針や行事予定、日々の教育活動の実際の様子等、開かれた学校の理念にたった情報などが必須である。今後は、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてのコンテンツも必要となってくる。そこには、学校と社会との双方向で情報掲載となることが望ましい。

（３）学校ホームページのコンテンツ例

学校ホームページでの基本的なコンテンツを挙げてみた。

ア、学校概要	イ、活動の様子
<input type="checkbox"/> 沿革 <input type="checkbox"/> 校章、校歌 <input type="checkbox"/> 教育方針（教育目標、教育理念、学校経営案など） <input type="checkbox"/> 校則、学校のきまり <input type="checkbox"/> 教育課程（年間計画等） <input type="checkbox"/> 行事予定 <input type="checkbox"/> 日課表 <input type="checkbox"/> 施設紹介（コンピュータールーム、LL教室、体育館など） <input type="checkbox"/> 所在地（アクセス方法、周辺地図など） <input type="checkbox"/> 問い合わせ先（クレームや質問窓口）	<input type="checkbox"/> 特色ある取り組み（あいさつ運動、地域活動等） <input type="checkbox"/> 日常の学習活動（人権教育、環境教育、英語活動等） <input type="checkbox"/> 日々の学校や児童の様子（授業風景や休み時間の様子など） <input type="checkbox"/> 教科外活動（委員会・クラブ、児童会活動等） <input type="checkbox"/> 行事（式典、運動会、学年行事、家庭訪問等）
ウ、健康・安全	エ、広報誌
<input type="checkbox"/> 健康管理関係 <input type="checkbox"/> 給食関係 <input type="checkbox"/> 出席停止関係 <input type="checkbox"/> 非常時対応マニュアル <input type="checkbox"/> 防災訓練	<input type="checkbox"/> 学校だより <input type="checkbox"/> 給食だより <input type="checkbox"/> 保健室だより <input type="checkbox"/> 図書館だより <input type="checkbox"/> 学年だより等
オ、PTA・地域	カ、研究・研修
<input type="checkbox"/> PTA関連コンテンツ（会長挨拶、規約、広報紙） <input type="checkbox"/> 地域マップ	<input type="checkbox"/> 校内研究 <input type="checkbox"/> 研究会案内
キ、その他	
<input type="checkbox"/> いじめ防止基本方針 <input type="checkbox"/> 学校評価（学校評議員、学校評価結果） <input type="checkbox"/> 各種届け等様式（含む転出入関係） <input type="checkbox"/> 更新情報（含む新着情報） <input type="checkbox"/> サイトマップ	<input type="checkbox"/> リンク集 <input type="checkbox"/> 個人情報運用規定 <input type="checkbox"/> 学校予算 <input type="checkbox"/> 携帯サイト

これだけが学校ホームページのあるべき全コンテンツではなく、あくまでも一つの例示にとらえ、ホームページを見直すポイントとしたい。そして、各校の学校ホームページ開設の目的に照らし合わせオリジナルとすることで、より特色ある学校運営のツールの一つとして、学校ホームページは輝きを増すと考える。

3. 社会に開かれた教育課程の推進

情報化やグローバル化といった社会的変化は予測を超えて進展し、子供たちを取り巻く環境はめまぐるしく変化している。そんな中で、目の前の子供たちが大人になる頃の社会がどのようになるか、まさに予測不可能と言っても過言ではない。しかし、そのような中でも主体的に向き合い、広い視野を持って、自分の人生を切り拓いていけるような力を身に付けていくことを重視し、今回の学習指導要領の改訂は行われた。それらの力をつけるために必要とされる資質や能力を育み、学校教育を学校内に閉じずに、社会と共有・連携しながら実現させることを目指し、「社会に開かれた教育課程」が明示された。

今回の学習指導要領でのこれからの教育課程の理念は【よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていく。】とある。

重要ポイントとしては

- ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

の3点が挙げられている。

「社会に開かれた教育課程」推進のキーワードとしては、「目標を社会と共有」「資質・能力を明確にする」「社会との連携および協働」ではないだろうか。本調査・研究では、教育課程の内容やそのための具体的作業等には触れないが、当然、「教育課程の見直し」は必要となる。そこで、社会と共有、連携・協働のためのツールとして学校ホームページを大いに活用すべきと考える。ただ、各学校の教育課程を見る限りでは、まずは既存の教育課程の細かな面での見直しで済むのではないだろうか。

今後、「社会に開かれた教育課程」実施に向けての、校内組織の整備や保護者・地域の方の参加体制など、取り組み方法に力を注いでいくことになるであろう。よりスピーディーに移行することを考えれば、従来の学校評議員を発展的拡大させるといったことも考えられる。

また、教職員はもちろんのこと、保護者・地域の方々への周知も進めるべきと考える。そのためにも、「わかりやすい教育課程」の構築をめざし、保護者や地域の方など誰が見ても、よりイメージ化し易い工夫といったことも考えて行かなければならない。そして、教育課程に則って学校運営ができているか、学校の様子の公開（ホームページや、学校開放等）が学校外に大いに発信できるようになることで「社会に開かれた教育課程」が実現していくと考える。

いずれにせよ、学校が保護者・地域の方々の協力を得ながら、よりよい学校教育を通じてよりよい社会

を創るという目標を達成して行くことが責務ととらえ、積極的な学校経営を進めていかなければならないのではないだろうか。

おわりに

世の中の変化を表す四文字熟語に「日進月歩」がある。しかし、現代社会の変化はそれどころか「時進日歩」のスピード感がある。このことは学校も例外ではない。うまく時代の波に乗っていかないと、たとえ公立小中学校といえども厳しい時代には変わらない。そのスピードに置いて行かれない一つのツールとして、また、子供たちの生き生きとした学校生活の様子を発信し、保護者・地域の方の信頼を得ることのできるツールとして、学校ホームページのあり方を調査・研究してきた。

今後、学校ホームページの重要性は、益々高まっていくことが予想される。日常の学校の様子を伝えることだけでなく、教育目標の具現化を進めるための情報を、ねらいをもって伝えることが問われてくる。また、新学習指導要領のポイントである「社会に開かれた教育課程」実現のためにも、誰に何を伝えるかの目的をはっきりさせた情報発信をしていく必要もある。併せて、業務の効率化を常に念頭に置き、各学校の状況に応じた組織的運用が望まれる。教育現場にとっては今後も厳しい時代は続くが、特色ある学校ホームページが今後も継続・発展していくことを願っている。